

Close-up People

全卸連プレゼンツ

『JPBA☆SSSカップ』の仕掛人

扇一平氏に聞く

「ボウリングが華やかなときは、世の中も明るいです」

文化放送時代、美声のアナウンサーとして人気を博し、プロデューサーとしても数多くの名物番組を手がけてきた扇一平氏。当時からボウリング愛好家としても知られ、定年退職後はボウリングを通じた社会貢献活動に邁進している。きたる11月20～21日、東京ポートボウルで開催されるプロアマトーナメント『全卸連プレゼンツ JPBA☆SSS カップ』もまた、その活動の延長線上で実現に至った、画期的な内容のJPBA 公認大会だ。



ボウリングは第1次ブームのころ、4歳上の兄貴を含めて家族4人で始めました。プロに憧れて、加山雄三さんの一族がオーナーだった茅ヶ崎のホテルパシフィックのボウリングクラブで、藤井政一プロ（1期）に付いて練習もしていました。

そのころ同じボウリング場で投げている、やはりプロに憧れていたのが同い年の桑田佳祐です。彼は、自分がまだハウスボールで始めたばかりで、ヘッドピンに当たればいいというぐらいのレベルだったころから200アップを連発していて「凄いなあ」と。ジュニアのトップクラスでした。

僕は今も「月イチ3Gボウラー」です。スコアは、悪いときは500前後、いいときは700近く。ひとつ悔しいのは、5年前に兄貴が年賀状に「40数年ぶりにハイゲームを更新しました」と書いてきたこと。19歳のときの299がそれまでの記録だったから、還暦を過ぎてパーフェクトを達成したわけです（苦笑）。

視覚障害者の大会に感激

文化放送を退職したときから「ボウリングに恩返ししたい」と、場協会に企画書を出し続けていました。大それたことはいませんが、貧困家庭のほとんどはシングルマザー家庭なんです。そんな家族をボウリングに無料招待したいというところからCSS（チャイルズスマイルサポート）は始まりました。

今サポーター企業を集めている最中で、女性社長とか、少しでも関心のある人はすぐに賛同してくれます。反対に、主旨を説明したときに「費用対効果は？」なんていわれると、こちらから断ります（笑）。

全卸連（全国化粧品日用品卸

連合会）の森友徳兵衛会長は、僕の親友なんです。15年前からポートボウルで「ファミリーボウリング・クリスマスパーティー」というのを学生時代の同級生の家族でやっていて、いちばんボウリングにハマったのが森友会長。今や僕よりもボウリング界の事情に詳しいですから（笑）。日本全国を2人で旅して、全卸連のCSSカップを地区予選からやっています。大会にはプロ協会が無償でプロを出してくれます。

なぜ僕らがこういうボウリングトーナメントをやろうとしたかというと、2年前に視覚障害者の全国大会を実況する機会があって、全盲の人が200アップしたり、ガイドレールを使ってひたすら投げ続ける姿を見ていたら、胸にグッとくるものがあつたんです。

そのとき優勝した高木綾子さんという、世界選手権でも金メダルを取った人にインタビューして「おめでとうございませう、高木さん」といった瞬間に「あっ、扇一平さんですか？」といわれたんです。何で分かるのかときいたら「私たちの唯一の媒体はラジオなので、アナウンサーの声は聞いただけで分かります」と（笑）。さらに「なぜボウリングをやっているんですか？」ときくと「心の中のスパットに体を向けて、いい音を聞きたいからです」といったんです。本当に感激しました。

そんなわけで、われわれは視覚障害者のボウリングも支援しています。

同業他社がこぞって協賛

既存のスポンサーに頼るのではなく、これまでボウリングに縁のなかったスポンサーを集めることが、業界貢献になると考えました。全卸連は著名なメー



▲9月26日、大会のテーマソング「逆襲プレリュード」のMV撮影が行われたときの記念スナップ。前列左端が扇氏の愛娘、AINAKANNAの愛奈さん、後列左から2番目が全卸連・森友会長（東京ポートボウル）

カーと卸売団体の集まりです。森友会長と、2年間16カ所でボウリング大会を開催してきた、機は熟したと判断してプロの大会をやることにしました。

今回はシニアに的を絞りました。シニアといってもプロはトップシードの選手たちで、準々決勝は現在のトッププロとアマチュアのシニアがペアを組むダブルス戦にしました。これはすごくうれしいことだと思うんです。今のトップシニアは第1次ブームの体験者で、最近のプロのこともある程度知っていますから。

2月のKUWATA CUPでは、桑田が大会のテーマソングを作ったり、試合後にはミニライブをやって、今までのトーナメントにはなかったエンターテインメント性を持ち込んだ。僕らも試合にエンターテインメント性を付加するためにテーマ曲を用意しました（AINAKANNA『逆襲プレリュード』）。

準決勝から決勝まで、どんな大会でもレーン整備や役員席の設営で1時間近く時間が空きます。プロ協会の提案もあって、そこを30分くらいのライブで埋めて、決勝に向かってみんなで盛り上げろ（笑）。

JPBA☆SSSカップのもう

ひとつの大きな意義は、特別協賛を引き受けてくださったユニ・チャームの高原豪久社長が「同業他社の垣根を取っ払って、全卸連の仲間みんなでやりましょう」といって、54の協賛社が集まったこと。それも半分以上が著名な会社ですからね。

KUWATA CUPでみんなが気づいたように、従来のプロトーナメントに足りなかったのは、エンターテインメント性と協賛社が喜ぶこと。ゴルフのトーナメントにはギャラリーブラザや協賛社のブースがあって、レストランもあるけれど、ボウリングは賞金や賞品を出してプレゼンターを務めるだけです。

今回は、協賛金額によってはテレビCMも流せて、さらにギャラリーブラザを会場内に作れるようにしました。メーカーが望む営業と商品のサンプリングができるように、仕組みを変えたんです。ですから、お客さんも出場する選手も、きっとたくさんのお土産を抱えて帰ることになると思いますよ（笑）。

最高のファミリースポーツ

ボウリングが華やかなときは、世の中も明るいです。「明るい」というのは、家族が仲よ

く楽しく過ごせるということ。これまで何度かミニバブルの時代がありましたが、景気がよくて生活が楽なときは、家族でボウリング場に行けるからです。

ボウリングは最高のファミリースポーツであり、生涯スポーツです。やんちゃな息子が「ただいま」も言わずに帰ってきて、そのまま自分の部屋に閉じこもってゲームをやっている。家の中では疎遠でも、ボウリング場に行けば一つのボウラーズベンチにみんなが腰掛けて、お父さんお母さん、お爺ちゃんお婆ちゃんが主役になれるスポーツでもある。ストライクを出せば「オヤジ、すげえな！」とハイタッチしたりする。そんなこと、家の中では絶対にあり得ないですからね（笑）。

第1次ブームのとき以来、ボウリング場から足が遠のいている人たちを、もう一度呼び寄せたいですね。そしてその人たちが、次にお子さんやお孫さんを連れてきて、ファミリーでボウリングを楽しんでほしい。

平日開催ですが、シニアの出場者の応援に、たくさんのご家族が来場する光景が見られればいいなと思っています。



おうぎ・いっぺい／本名・扇逸平。1955年7月14日、兵庫県西宮市生まれの神奈川県藤沢市育ち。慶應大学法学部卒。元文化放送アナウンサー兼プロデューサー。2015年に定年退職後、フリーアナとして活躍するかたわら、株式会社トミックスジャパンを設立し、ボウリングを通じた社会貢献活動を展開。